

授業科目 臨床化学実習 II

【担当教員名】  長濱 大輔		対象学年	2	対象学科	臨床
		開講時期	後期	必修選択	必修
		単位数	1	時間数	45
【カリキュラムポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	◎	○	○	◎	
【概要・一般目標：G10】 生体試料中の成分を定量するために必要な器具器材や装置の操作法や分析方法を理解し、臨床化学分析における基本操作、定量方法、結果の解釈などの技術を習得する。					
【学習目標・行動目標：SBO】 1 各項目の分析方法を簡単に説明する。 2 検査値の臨床的意義を説明する。 3 データの正確性、精密性について説明する。 4 精度管理の方法を説明する。 5 臨床検査結果の解釈について例をあげて説明する。					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1、2	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼの測定			1-3	実習
3、4	アラニンアミノトランスフェラーゼの測定			1-3	実習
5、6	クレアチンキナーゼの測定			1-3	実習
7、8	アルカリフォスファターゼの測定			1-3	実習
9、10	アミラーゼの測定			1-3	実習
11、12	血清ナトリウム、カリウム、クロールの測定			1-3	実習
13、14	カルシウム			1-3	実習
15、16	無機りん			1-3	実習
17、18	鉄			1-3	実習
19、20	ホルモン、薬物の検査			1-3	実習
21、22	精度管理			4	実習
23	臨床検査情報の評価、判断基準等			5	実習
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)					
参考書		臨床化学検査学	浦山 修 他	医歯薬出版	2010・5,880円
その他の資料					
【評価方法】 レポート (10%) 実技試験 (20%) 定期試験 (70%)		【履修上の留意点】 疾病と検査値の関わりを学ぶので項目毎に異常値の出るメカニズムを予習して臨むこと。			